## 令和２年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

# 第２回対人援助スキルアップ部会を開催しました

〇9 月 14 日（月）上越市福祉交流プラザにて、第２回対人援助スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー８名と在宅医療推進センターコーディネーター２名、事務局３名でした。

〇第２回の部会では、事例を通して部会メンバーの対人援助についての日頃の困り感等を共有しました。

【ニーズとデマンドの差があるとき】

・ご本人の希望と支援者の考えがうまく合致しないケースでは、支援者からの提案を受け入れられないことがある。
・提案を受け入れられないと、支援者がご本人への支援に対して苦手意識や、後味の悪さを感じることがある。
・どのように提案を促すとよいのか？

→　ご本人なりの理由や思い等を聴いていくことが大切。

「この支援者は自分を理解しようとしてくれているな」と思っていただけるようにしていく。

ご本人のニーズに合わせた環境調整等を一緒に考えていく。　など

【医療と介護のズレがあるとき】

・施設から「対応困難」と入院依頼があるが、入院すると紹介状程ではないケース。
・支援者により困り感の大きさに差がある。
・支援者と家族間での症状理解のズレがあり、ご本人に合わせた対応が困難なケース。
・ご本人に困り感がなく一人で受診するケースでは実態が見えにくい。

→　家族のつながりが希薄なケースについて、いかに結び付けていくかが大切。

関係者がご本人の思いや生活歴等を理解し、共通の目標を持てるようになるとよい。

マイナス面だけでなくプラスの面も共有していく。

診察場面と実生活の差について、関われる支援者がいるとよい。　など

【部会メンバーの感想から…】

★こだわりがある人は多い。なぜこだわるのかを聞くことや、考えることが大切。
★自分に苦手意識があると相手に伝わる‥。
★生活歴を見ていくようにしたい。
★できないところを見て、補う形ではなく、飛び出したところも共有しよう。
★「認知症の人」ではなく、その「人」を理解しよう。

≪今後の予定≫

〇今後、「ご本人の視点でご本人を理解できる」力を高めるために、『エンドオブライフ・ケア』、『パーソン・センタード・アプローチ』の理解を深めていきます。

〇まず、10 月と１月に開催される、エンドオブライフ・ケアの研修会に部会メンバーで参加し、第３回目の部会では、研修会の感想等について共有しながら、どのようにスキルアップを図っていくか、来年度の取組について話し合う予定です。